

氏名	山田牧子	部署	看護学科	職名	助教
研究分野	死生学 スピリチュアルケア				
学位	人間福祉学修士				
学歴	2014年独立行政法人大学評価機構学位授与機構終了（看護学） 2016年聖学院大学大学院人間福祉学研究科修士課程修了（人間福祉学） 2022年3月東洋英和女学院大学大学院博士課程単位取得後満期終了退学（死生学）				
経歴	2012年～2019年 共済学院 日本保健医療大学保健医療福祉学部看護学科助手 2021年4月～埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科助教				
所属学会（役職）	日本臨床死生学会 日本スピリチュアルケア学会 日本保健医療行動科学会 日本看護科学会				

【2024年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	該当なし					
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌 雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名	発表等年月
1	不登校居場所支援でのデジタルゲーム活用の効果について	単	有	日本保健医療行動科学会 第39巻2号、37-41	山田牧子	2025年2月
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共	学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	模擬患者を活用した基礎看護学演習での学生の変化－対話型シミュレーション演習の教育効果－	共同	第38回日本保健医療行動科学会学術大会 京都府	○山田牧子(埼玉県立大学)、青森広美(埼玉県立大学)、久保田章仁(埼玉県立大学)	2024.10	
1	埼玉県立大学が地域の子どもに開く「からだプログラム」の開発－多職種連携によるヘルスプロモーションの推進－	共同	日本保健医療福祉連携教育学会 第17回学術集会 埼玉県越谷市	○吉村基宜、高橋恵子、田村佳士枝、山田牧子、平田美佳、添田啓子	2024.11	
1	市民のヘルスリテラシーの向上をめざすオンライン講座の有用性－参加者の特性とヘルスリテラシーの変化－	共同	日本看護科学学会 熊本市	○高橋恵子、佐藤晋巨、松本直子、中村めぐみ、射場典子、高橋綾、山田牧子、平田美佳	2024.12	
(4) その他						
	名称	単・共	発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月	
1	市民の「健康情報を入手し、理解する力」の向上をめざすオンラインを用いたヘルスリテラシープログラムの評価	共同	埼玉県立大学奨励研究A研究	○高橋恵子、高橋綾、山田牧子、平田美佳（順天堂大学）、佐藤晋巨、中村めぐみ、射場典子（聖路加国際大学）、松本直子（日本看護協会）【研究協力者】江部紀美子（お茶の水大学小学校）	2025.1	
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称	研究名		研究代表者・研究分担者の別	研究期間	
1	科学研究費 基盤研究(B)	市民と保健医療者が共に考える「市民主導型ケア」の学習支援プログラムの開発と評価		研究代表者：高橋恵子 研究分担者：亀井智子、有森直子、朝澤恭子、麻原きよみ、新福洋子、射場典子、山田牧子	2024-04-01 – 2028-03-30	
2	科学研究費 基盤研究(C)	寝たきり患者が車椅子シーティングを活用するための看護援助方法の検証		研究代表者：青森広美 研究分担者：清宮清美、水野智子、山田牧子、半田隆志	2020-04-01 – 2025-03-30	

3	埼玉県立大学奨励研究A	埼玉県立大学が地域の子どもに開く「からだプログラム」の開発	研究代表者：吉村基宜 研究分担者：高橋恵子、田村佳士枝、 <u>山田牧子</u> 、平田美佳（順天堂大学） 【研究協力者】添田啓子	2024-04-01 – 2025-03-30
4	埼玉県立大学奨励研究A	市民の「健康情報を入手し、理解する力」の向上をめざすオンラインを用いたヘルスリテラシープログラムの評価	研究代表者：高橋恵子 研究分担者：高橋綾、 <u>山田牧子</u> 、佐藤晋巨、中村めぐみ、射場典子（聖路加国際大学）、松本直子（日本看護協会）、平田美佳、 【研究協力者】江部紀美子（お茶の水女子大学附属小学校）、杉田瑞枝（市民サポーター）	2024-04-01 – 2025-03-30

3. 教育業績

（1）講義

	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	看護管理		8	マネジメントプロセスや、看護職に関連する法令、キャリア開発など管理に関する内容について、協同学習の演習方法を活用したグループ学習が活発に行われるようサポートをした。災害看護では1コマの講義・演習を担当し、グループワーク演習では自分の住む地域で起こりえる災害に関するシナリオを作成し、看護実践の場におけるコミュニケーションを行い、チームとして協力して問題を解決する練習を行った。具体的な状況をイメージしやすく工夫することにより、災害時の看護管理に必要な協力とコミュニケーション能力等、災害時の看護実践をより現実的に理解できるよう進めた。

（2）演習

	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	看護方法Ⅰ		16	科目責任者と協力し、技術演習が効果的になるよう事前検討を行い、技術演習の指導をおこなった。学内演習は学生の探求心を引き出せるよう意識しながら関わった。
2	看護方法Ⅱ		16	科目責任者と協力し、技術演習が効果的になるよう事前検討を行い、安全安楽な看護の基本技術について探求し学習できるように留意した。
3	看護方法Ⅲ	○	16	安全安楽な看護の基本技術学習について学生自ら主体的に探求できるよう自分で考え、自分で調べ、自分で組み立てられるよう授業計画を立て、進めた。清潔の援助（部分浴）演習で、自らもかかわっている埼玉県立大学模擬患者講座でプログラムを組んで養成した模擬患者を活用し、模擬患者を導入したシミュレーション学習を行った。基礎看護学実習Ⅱ前で患者を受け持つ体験のない学生に対し、臨場感をもってケア実践を行う機会を設け、効果的なコミュニケーション方法、患者中心の視点を養った。模擬患者演習後のフィードバックセッションでは、学生は自分の強みと改善点を認識し、次回の演習に向けて具体的な改善策を考えられるように進め、臨床実習での実践に向けて学生の準備をサポートできるよう工夫した。
4	看護方法Ⅳ		16	科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。清潔操作や安全など実際の場面を想像しながら演習できるよう、言葉かけをした。
5	看護方法Ⅴ		16	科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。対面のグループワークなどに参加して討議が活発になるよう学生指導を行った。

6	看護過程論		16	紙上事例を使用し、ヘンダーソンの理論をもとに看護過程の展開についてグループワークを行い、グループワークでは、思考を深め、議論を活性化させるために質問を投げかけるなど、学習のプロセスで理解が進むようサポートをした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）
1	ヒューマンケア体験実習	○	学内実習：2024年9月25日～9月29日 学内実習：6コマ	実習メンバー30名を担当した。担当教員と連携し、福祉施設、病院といった保健・医療・福祉・介護が実践される現場での実習において、ヒューマンケア実践者として、見学やコミュニケーション実践をリフレクションする中から、ケア実践者としての自らの価値観を形成していけるようグループ活動をサポートした。
2	総合実習		学外実習：2024年4月～7月 学内実習：13コマ	4年次生を対象に、事前学習（学内実習）・事後学習（学習成果発表会）を含めた実習指導を行った。総合実習担当として、基礎看護学領域における総合実習の運営を行った。 看護実践力を高めるため、卒業時到達目標に照らし自己の課題を明確にし、課題に取り組めるよう、事前学習をサポートした。事前学習には実習病棟や、学生の課題の特性に合わせた事例によるシミュレーション演習を行った。患者中心の医療、安全、倫理、看護管理といった視点や、看護技術といった、看護の基盤となる学習課題について、取り組めるよう、実習においては、退院支援調整部門にも実習に協力してもらえよう、病院と調整し、学生が課題に沿った看護活動を行えるよう工夫した。
3	基礎看護学実習Ⅰ		学外実習：2025年1月～2月:45時間	見学実習の中から、生活者としての療養者の視点、そこからどのような看護が必要かといった視点で、現場で見た内容を十分に解釈し、考察できるよう、助言しながら実習をすすめた。初めての实習で、緊張もあったが、学生自身で指導者やグループメンバーに働きかけることが出来るよう、サポートした。
4	基礎看護学実習Ⅱ		学外実習：2024年9月～10月 学内実習9コマ	初めての受け持ち実習であり、不安が軽減できるよう話しやすい雰囲気づくりができるように心がけた。情報収集や観察、患者とのコミュニケーションの中から患者の状況やニーズを把握し、既習の知識や技術を活用して必要なケアが実践できるよう、サポートした。また、学生同士の相互作用や関係性によって実習を効果的に進めていけるよう、学生同士サポートしあえるよう、実習開始前や実習中グループ同士での話し合いができるよう、促した。自分の実践を振り返り、学生自身の学びにつながるようカンファレンスを活用しディスカッションを行った。
5				
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2024年4月～2025年1月	主指導 2名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	該当なし			

4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	失語症の日当事者交流「失語症かぐら2024」	みやぎ失語症を生きるネットワーク「まんまる」	「障害とは」というテーマでの講義	2024.4月
2	こどもの居場所でのデジタル活用についての勉強会講師	NPO法人 新座子育てネットワーク	不登校の現状・トレンドについて	2024.6月
3	こどもの居場所でのデジタル活用についての勉強会講師	NPO法人 新座子育てネットワーク	こどもの居場所でのデジタル活用について	2024.8月
4	埼玉県立大学オープンカレッジ	埼玉県立大学	「大丈夫？あなたが見ている健康情報～情報の探し方・選び方のコツを学ぶ～」	2024年8月
5	埼玉県立大学オープンカレッジ	埼玉県立大学	「からだ」のおはなし会	2024年8月
6	埼玉県立大学オープンカレッジ	埼玉県立大学	模擬患者養成講座 入門編 「模擬患者とは」	2024年11月
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称		任期
1	該当なし			
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	地域貢献活動	市民活動団体春日部ひろば	不登校の居場所支援 キャリア支援 支援者のアドバイザー	2024年4月～2025年3月
2	地域貢献活動	2024 年度越谷市生涯学習フェスティバル	「からだのおはなし会」	2025年2月
5. 学内運営				
	項目	内容		期間
1	学科等における委員会等	学生支援委員会 1年担任 就職支援担当者会		2024年4月～2025年3月
2	大学広報活動	オープンキャンパス		2024年8月
3	大学広報活動	高校出張講座		2025年3月
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	がくし		受賞年月
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号		登録年月
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			